

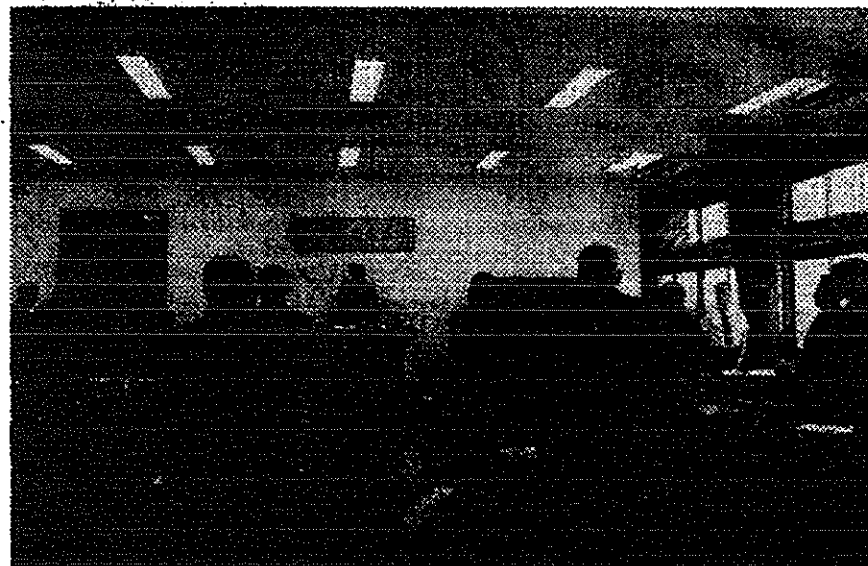
「工盤が動き出した」。沖美町のある町議が声を潜めて言った。同町沖の無人島、大黒神島への米空母艦載機の夜間発着訓練(NLP)施設の誘致を求める動きが、同町内で再燃し始めたというのだ。構想は1年5カ月前に発覚し、圧倒的な反対の声の前に間もなく頓挫。誘致活動の再興は不可能に見えた。だが、今年11月の江能4町合併による江田島市成立も射程に入れ、息を吹き返そうとしている。島にうごめくNLP誘致の影を追った。

18日開会した同町定例 地誘致推進期成同盟会一般質問。普段通りの一般質問が結成された。毎日新聞問があり、審議は短時間が入手した名簿には、建て終了し、閉会した。美設、漁業関係者ら約30人はこの日、NLP誘致に名前を連ねる。

ついで、推進、反対両派の町議とも松井晃町長の前町長が誘致構想を白紙に引き、両派とも、結局撤回して辞任したが、直は質問をやめた。町内の事情通の一人は、「推進期す動きがあった。同4派は最終的に、またその時ではないと判断した。反対派も、その様子を見て議論を先送りした」とを聞いた。

同日、町内の建設業者が削減していないことを会長に、「大黒神島基

沖美に基地誘致の「亡霊」



NLPに関する一般質問が行われる予定だった沖美町議会。約3時間ですべての日程を終え、閉会した
—18日午後0時ごろ

建設業者ら 推進同盟会を結成 今日1日

「誘致について」と話した。今後、同盟会は町内で誘致を求める署名活動を進める方針。町民の半数の賛成は取れるともころんでいる。今回、町議会での質問をやめた背景に、

会関係者を働きかけの活発さで驚かせた。町議への説得も行われ、有力町議の一人は「昨年10月にメンバーになるよう熱心に誘われた」と話した。同盟会側は「北朝鮮の脅威など世界情勢が悪化する中、日米同盟を強化し、平和を守ることに貢献する施設を誘致したい」とする。しかし、過疎に悩む同町には「迷惑施設が町の起死回生の秘策」という考えが根強く、同盟会の活動の原動力も乏しい。

「基地だったら海は守られるけんね」
で買ってもらえるよあつ

大黒神島基地誘致推進で、処分場誘致に動く過期成同盟会のメンバーの疎の町は少なくない。同漁業関係者が、日焼けした顔で話した。沖美町内が建設されている。

では最近、新たな産業廃棄物処分場建設の計画が人口は4029人（今月1日現在）。うち65歳以上



青い海に囲まれた大黒神島。周辺の海域は絶好の漁場だという

「基地なら海は守られる」

定も危機的な状況だ。そんな中、町の活性化のために、国の補助金や優遇措置を得られる施設の誘致を求める声は強い。この漁業関係者も、何がしかの施設誘致が必要と考えている。

子どもが沖美を出た人には分かん。わしの翌日、同町役場には抗議

名運動を展開した片谷健一郎さん(64)。同様の思いから「迷惑施設」を誘致した全国各地の町が、必ずしも幸せな現在を築いてはいないとみる。沖美町民も、そのことは分かっている。昨年1月に誘致構想が発覚した翌日、同町役場には抗議

米空母艦載機の夜間発着訓練(NLP)施設の誘致が実現すれば、周辺自治体への影響も避けられない。米軍基地の監視を続けている「ピースリ

世話人、湯浅一郎さんは「NLPは環境破壊や騒音問題だけでなく、(20キロほどの距離の)広島市上空で航空機事故を引き起こす可能性もある」と指摘する。谷本前町長辞任の背景には、周辺自治体や県が即座に反対したこともある。

本当に誘致がなければ町は生き残れないのか。実は大黒神島から、直線距離でわずか13キロの山口県岩国市でも「活性化」のための誘致構想が持ち上がっていた。

新たな産廃施設誘致も

子に、そのうち子どもが生まれるじゃろ。そしたら、子どもはどの学校に行かすの。4、5人じゃあ学校にならんじゃん。やっぱり不安なんよ」この人にとって、誘致施設の条件は、長年生産の糧としてきた海が守られること。処分場は受け入れられない。「ゴミは孫の代まで残り、海を汚す。ゴミのり基地の方がすつとよそ」

「町の活性化」という

谷さんは「美しい自然が町の一番の資源。過疎を懸念する気持ちは分かるが、この自然美を生かした町の将来を町民、行政がともに真剣に考えるべきではないか」と話す。

さらに、片谷さんは、

うごめく影

③

「NLP施設の誘致を。メガフロート構想は条件に、沖縄のような振興特別措置法を制定すれば、ばく大な補助金が落ちる。空母やテーマパーク、大劇場を建設し、岩国は国際的観光都市を自指せる」

米艦載機の夜間発着訓練(NLP)誘致構想をぶち上げる笹川徳光・岩国商工会議所会頭の広げる風言数は大きい。

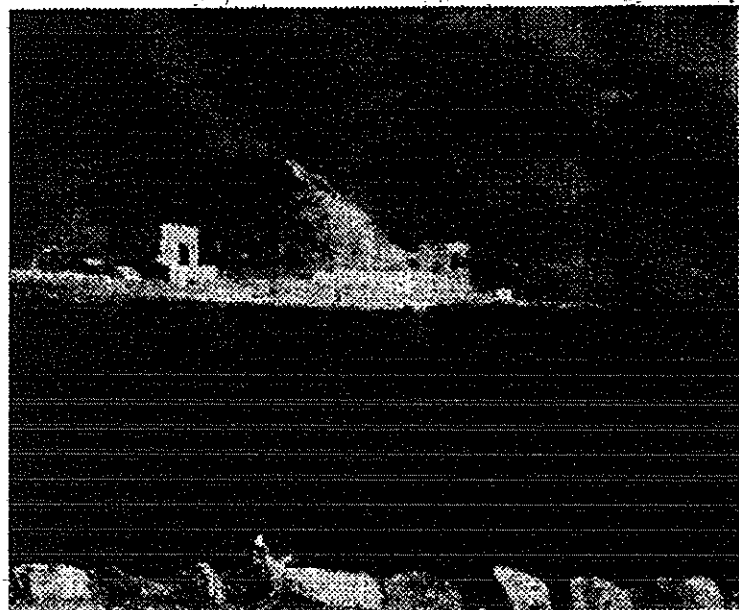
誘致の舞台は、米軍岩国基地東側沖約3・5キロの姫子島。面積約1000平方メートルの無人島だ。現在は赤茶けた岩肌がむき出しの島だ。戦後、米軍に接収されて爆撃訓練場となり、現在は期限切れの弾薬の爆破処理場になっている。

る。メガフロート構想は米海軍厚木基地を抱え、NLPの騒音問題に苦慮する神奈川県でも99年に浮上し、米海軍司令官も検討対象に含めていることを示唆している。

岩国基地では現在、滑走路を約1キロ沖に移設する工事が進む。騒音や米軍機墜落の危険性を軽減するための事業だが、笹川会頭はこの新滑走路で、米軍はNLPを集中的に行う可能性がある。

NLP誘致を全面的に打ち出し、沖合に専用滑走路を建設した方が、騒音も減り、経済効果もある」と話す。地元経済界もこの構想について調査、研究することを了承している。

抗感ある広島には無理



誘致構想の舞台となっている岩国市沖の周辺 (田村市議提供)

意気込む岩国の誘致派

の施設誘致は絶対に無理だ」とし、土地柄からの有利性も強調する。笹川会頭は、基地が町の発展を阻害してきた過去を逆手に取るという。基地の面積は約570畝。岩国市の平地の3分の1を占める。基地で道路整備は遅れ、周辺工場も制約が多かった。笹川

会頭は「基地のせいで失った利益は10兆円にも上る。NLP施設誘致で実利を取るべきだ」と言葉の度には県や市は抗議し、市民も座り込みなどをしてきた。井原勝介市長は「基地の機能強化やNLP実施には絶対反対だ。いくら経済効果があっても、市民生活の平穏を乱す施設誘致など出来るはずがない」と断言した。

同じ反対派でも、基地の監視運動をする「追跡ス」のメンバー、田村順玄市議は、NLP施設誘致がなし崩しに実現する可能性のあるものとみて、危惧を強める。基地の沖合移設事業で、空母入港が可能な深さ13メートルの岸壁が整備されることを重視。「空母入港は地元経済にとってはプラス。」

うぐいめく影

◆④◆

「岩国基地周辺には、高知県沖や中国山地など訓練エリアが豊富。特に最近では異常な訓練、異常な(北朝鮮への)威圧行動が目立つ」

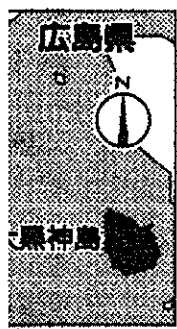
基地の監視運動を続ける市民団体「追跡」は、米軍・リムピースのメンバーの田村順玄・山口県岩国市議は、最近の基地の動きを警戒する。

同団体の調査によると、昨年度の米軍機と自衛隊機の離陸回数は800回で前年比104.6%増。岩国駐留の米海兵隊所属主力3機の低空飛行訓練の回数は、329回で前年の約1.8倍になった。3月の米韓合同演習に参加した戦闘攻撃機などは、岩国から韓国(川東)まで飛び回る。

苦慮する現状がある。横須賀基地(神奈川県)には、米海軍の空母キティホークが配備されているが、近くの厚木基地では騒音訴訟の敗訴などで訓練が困難になっている。

91年以降、主に硫黄島で実施しているが、厚木から約1200キロも離れているうえ、付近に事故に対応できる医療施設などはなく、米軍は適当な場所を考えていない。

岩国基地は、硫黄島供用後もNLPの予備基地に指定され、悪天候などを理由に94年以降計20日間の訓練が実施された。来月7～16日に硫黄島で



島神黒大に延長の重視

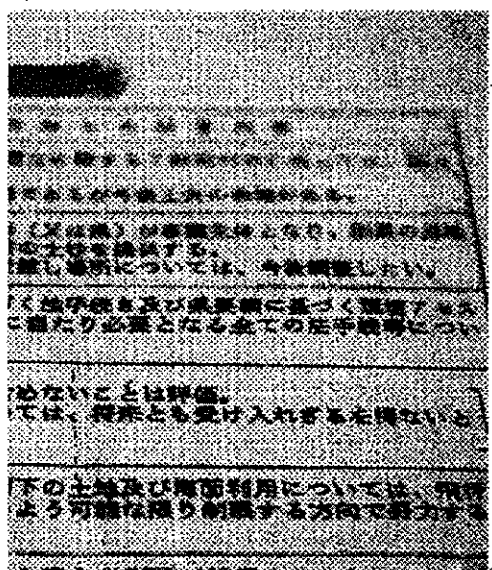
予定される訓練でも、岩国対策担当部長が署名、押印。NLPについての同市からの照会に、同県、同市とも「将来とも受け入れざるを得ない」と思料」と回答していた。

発覚後、3者は「担当者との協議結果を残したものに過ぎない」との見解で合意。現在の井原勝介岩国市長も「あの合意議事録に既に効力はな」と断言するが、今後市議も「岩国基地には、朝鮮半島に最も近い米軍の飛行場がある。米軍は、

「国もあきらめない」

朝鮮半島での問題に備える拠点基地として、さらに重視するはずだ」と口をそろえる。

沖美町の大黒神島は、岩国基地沖わずか約13キロ。田村市議は「大黒神島へのNLP誘致が、岩国基地と連動した構想なり。



と岩国市の担当者は防衛施設庁の意向を示した。受け入れざるを得ないと思料」

受け入れざるを得ないと思料」